

6年

全国学力・学習状況調査 結果分析

国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
河内長野市立三日市小学校	106	8.6 / 14	62	9.0	3.3
大阪府(公立)	64,339	9.2 / 14	66	10.0	3.1
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			貴校	大阪府(公立)	全国(公立)	
全体			62	66	67.7	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	60.6	63.4	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	83.0	85.5	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	66.0	72.6	74.6
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	52.5	57.3	59.8
		B 書くこと	2	59.4	65.9	68.4
		C 読むこと	3	65.4	69.0	70.7
評価の観点	知識・技能	6	65.3	68.6	69.8	
	思考・判断・表現	8	59.1	63.9	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	10	64.7	68.0	69.9	
	短答式	2	56.1	58.7	59.7	
	記述式	2	52.4	62.3	64.6	

生徒が複数の資料を読み、必要な情報を選び取って答える問題や、知識を生活場面に応用する問題が多く出題された。

本校の平均正答率は全国平均よりも約6%低く、特に文章を読んで条件に応じて記述する問題で差が大きかった。

知識や技能を問う問題では漢字や主語の問題に課題があり、応用力を問う問題では記述式の形式に課題が見られた。

- ・物語をよんで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。

無解答率(17% 全国12.6%)

- ・時間が足りなかったと感じている児童は全国平均よりも多い。

全く足りなかったと感じている児童は9.2%だった。(全国3.9%)

6年

全国学力・学習状況調査 結果分析

算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
河内長野市立三日市小学校	106	8.9 / 16	55	9.0	4.1
大阪府(公立)	64,385	10.0 / 16	63	11.0	3.9
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)		
			貴校	大阪府(公立)	全国(公立)
全体			16	55	63.4
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	57.2	65.3	66.0
	B 図形	4	59.7	65.2	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	42.1	50.9	51.7
	D データの活用	4	54.5	60.9	61.8
評価の観点	知識・技能	9	65.4	71.9	72.8
	思考・判断・表現	7	42.5	50.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	68.7	74.5	75.3
	短答式	7	53.6	61.2	62.0
	記述式	4	41.7	50.1	51.0

本校の成績は大阪府や全国平均より低かった。

特に「数と計算」や「測定」の分野で正答率が低く、記述式問題に無回答の児童が多いことが課題であった。基礎的な四則計算での誤答が多かった。

見取り図や展開図の学習では、正答率が平均より高く、実際に具体物や立体に触れることで効果的な学習ができていると考えられる。

記述式の問題での無回答率が高く、特に条件付きの問題で回答方法が分からない児童が多い。また、情報量の多い問題や、条件を整理して解く能力に課題がみられた。

- ・四則計算での誤答が多い。

- ・条件付きの問題(記述式)での無回答立が高い。

- ・情報量の多い問題を、条件を整理して解くことが苦手。

6年

すくすくウォッチ 結果分析

理科

	児童数	平均 正答率(%)	標準偏差
貴校	108	62.9	2.3
大阪府	64578	63.7	2.3

分類	区分	問題数	平均正答率(%)	大阪府 平均正答率(%)
学習指導要領 の領域 等	「エネルギー」を柱とする領域	6	63.9	63.4
	「粒子」を柱とする領域	1	81.5	75.9
	「生命」を柱とする領域	2	81.9	82.0
	「地球」を柱とする領域	2	31.5	40.3
評価の 観点	知識・技能	7	70.5	69.9
	思考・判断・表現	4	49.5	52.7
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題 形式	選択式	6	65.3	65.1
	短答式	3	81.8	80.0
	記述式	2	27.3	34.9

本校の平均正答率は62.9%で、大阪府の平均63.7%をやや下回っていた。

- ・記述式問題と思考・判断・表現を問う問題の正答率が低かった。
- ・レンズの性質やあたためた水の様子、ふりこの実験方法の正答率が高く、授業での実験内容が定着していると考えられる。
- ・実験や観察を通じて興味を持ち、集中して授業に取り組んだことが良い結果に繋がったことが考えられる。
- ・記述式問題での正答率が30%を下回っており、これは得た知識を使って文章に表したり、実生活で活用する経験が不足しているためと考えられる。

6年

すくすくウォッチ 結果分析

わくわく問題

	児童数	平均 正答率(%)	標準偏差
貴校	108	68.4	2.4
大阪府	66036	68.5	2.2

分類	区分	問題数	平均正答率(%)	大阪府 平均正答率(%)
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	4	69.9	70.7
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	5	61.9	62.5
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	2	74.1	74.6
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	3	79.0	79.7
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	1	88.9	89.9
問題を とらえる	文章から読み取る	6	70.4	71.8
	会話から読み取る	3	64.5	62.1
	図や表から読み取る	7	65.3	65.7
伝える	資料の情報を整理して伝える	7	66.8	66.8
	自身で考えたことを伝える	3	79.0	79.7
	理由や根拠を明確にして伝える	2	74.1	74.6
問題 形式	選択	5	63.3	61.9
	図表	1	88.9	89.9
	記述	4	74.8	76.9

問題文が非常に長く、必要な情報を抜き出して整理するリテラシー能力が求められる問題が多かった。また、問題点や改善策を自分で考える力が必要であった。

本校の正答率は68.4%で、大阪府の68.5%とほぼ同じであり、本校の児童は大阪府の平均的な位置にあると評価できる。

- ・「自分で考えて書く」という記述式の問題の正答率が80.6%と高く、記述が得意な児童が比較的が多いことがわかった。
- ・「会話から読み取る」区分や「選択」の問題形式の正答率が府平均より高く、学級内でのコミュニケーションを重視した学習が成果に繋がっていると考えられる。

5年

すくすくウォッチ 結果分析

国語

	児童数	平均 正答率(%)	標準偏差
貴校	108	75.5	4.1
大阪府	63562	73.4	3.8

分類		区分	問題数	平均正答率 (%)	大阪府 平均正答率(%)
学習指 導要領 の内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	15	77.6	75.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	71.3	70.7
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	48.1	51.3
	思考力、 判断力、 表現力等	話すこと・聞くこと	—	—	—
		書くこと	5	69.3	64.9
		読むこと	—	—	—
評価の 観点	知識・技能	17	75.5	73.4	
	思考・判断・表現	5	69.3	64.9	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	
問題 形式	選択式	8	79.3	78.0	
	短答式	9	72.1	69.3	
	記述式	—	—	—	

平均正答率は大阪府の平均を2.1%上回っており、ほとんどの項目で良い結果が出た。

漢字の同音異義語の書き取り問題の正答率は低かったものの、多くの児童が書こうとする意欲を見せた。

- ・指示語の問題では高い正答率を示し、日々の学習が成果を上げたと考えられる。
- ・故事成語や接続詞の問題で半数以下の正答率にとどまり、漢字の応用問題や文法の理解が弱点であることが明らかとなった。
- ・「書くこと」に関しては、大阪府と比べて正答率が高く、昨年度の国語科の取り組みが良い結果に繋がったと考えられる。

5年

すくすくウォッチ 結果分析

算数

	児童数	平均 正答率(%)	標準偏差
貴校	108	36.1	2.0
大阪府	63555	36.7	2.0

分類	区分	問題数	平均正答率(%)	大阪府 平均正答率(%)
学習指 導要領 の領域 等	数と計算	2	33.8	36.4
	図形	3	30.2	30.4
	測定／変化と関係	2	33.8	36.4
	データの活用	2	47.2	44.6
評価の 観点	知識・技能	4	41.0	42.5
	思考・判断・表現	4	33.3	32.2
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題 形式	選択式	2	47.2	44.6
	短答式	3	29.6	34.8
	記述式	2	34.7	31.8

大阪府平均に比べると0.6%低かった。全体的には大阪府平均を下回る部分が多かったが、最後まで諦めずに取り組む姿勢が見られた。

- ・記述形式の問題では全国平均を上回り、特に理由や根拠を明確にして図や表を工夫して表現する問題で大阪府平均を8～9%上回った。
- ・昨年度からの書くことに関する取り組みが成果を上げており、効果が見られた。
- ・データ活用に関する問題でも大阪府平均を上回り、特に表やグラフを読み取る力が向上している。
- ・公式を用いた問題や身近な題材を活用した問題でも成果が見られた。
- ・数と計算、測定、変化の関係などの問題で大阪府平均を下回り、日常的に計算練習やケアレスミス（2つ答えなさいを1つしか答えていないなど）も課題であった。

5年

すくすくウォッチ 結果分析

理科

	児童数	平均 正答率(%)	標準偏差
貴校	108	65.3	2.3
大阪府	63629	61.9	2.3

分類	区分	問題数	平均正答率(%)	大阪府 平均正答率(%)
学習指導要領 の領域 等	「エネルギー」を柱とする領域	7	63.9	60.4
	「粒子」を柱とする領域	1	79.6	74.9
	「生命」を柱とする領域	1	79.6	86.4
	「地球」を柱とする領域	2	56.0	48.4
評価の 観点	知識・技能	7	68.1	67.3
	思考・判断・表現	4	60.4	52.5
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題 形式	選択式	6	65.7	63.0
	短答式	3	72.8	73.0
	記述式	2	52.8	42.1

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の基本的な問題が出題され、大阪府の平均よりも全体で3.4%高い成績を収めた。特に思考・判断・表現の分野で7.9%高く、選択式や記述式の問題で高い成果が見られる。全体的に大阪府よりも高いレベルであることが確認できた。

- ・体験的に得た知識が良い結果に影響していると考えられる。
- ・思考・判断・表現や記述式問題で府平均を上回っているのは、学校が積極的に取り組んできた研究の成果であり、自力解決や振り返りなどの活動が効果を上げたと思われる。
- ・全体的に府平均を上回っているのは、体験的な授業を多く取り入れ、理科に対する興味を引き出す授業が貢献していると考えられる。
- ・夕日の意味、チョウの体のつくり、磁石の特徴の理解が不足している。
- ・正しい答えをすべて答えるタイプの問題での正答率が低く、問題を最後まで読むことを意識させる必要がある。

5年

すくすくウォッチ 結果分析

わくわく問題

	児童数	平均 正答率(%)	標準偏差
貴校	107	62.4	2.4
大阪府	65070	57.9	2.4

分類	区分	問題数	平均正答率(%)	大阪府 平均正答率(%)
観点	A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連づけて、正しくとらえる。	4	62.4	60.5
	B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連づけて、それをもとに論理的に会える。	5	55.9	50.4
	C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連づけて、それをもとに新たな課題を考える。	2	72.0	62.8
	D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容に関連づけて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	3	77.6	68.8
	E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	1	88.8	80.7
問題を とらえる	文章から読み取る	6	65.0	61.1
	会話から読み取る	3	57.3	51.6
	図や表から読み取る	7	59.1	54.6
伝える	資料の情報を整理して伝える	7	59.7	56.5
	自身で考えたことを伝える	3	77.6	68.8
	理由や根拠を明確にして伝える	2	72.0	62.8
問題 形式	選択	5	54.6	52.2
	図表	1	88.8	80.7
	記述	4	72.2	65.0

本校の正答率は62.4%で、大阪府の57.9%を上回っており、ほとんどの項目で府平均を超えている。

- ・記述形式の問題において、国語の授業での継続的な書く練習が成果を上げていると考えられる。
- ・本校の5年生は、興味や関心に基づいた工夫や伝達も含め、すべての分類で大阪府平均を上回っており、自分で考えて取り組む姿勢が定着していることが成果として挙げられる。
- ・図や表から情報を関連付けて論理的に考える問題に課題がみられた。
- ・わり算や割合・比を使った問題、プログラミングの問題、および会話文から読み取る力が比較的弱い。読み取ったことを基に、結果を導く過程を学びながらこの力を養う必要があると考えられる。

アンケートより

6年生

□学習面

- ・コンピューターやタブレットは楽しんで使用しているが、学習ツールとしてはあまり活用されていない。また、ICTを使った家庭学習の割合が低く、携帯電話の使用についての約束がない児童が多数いることがわかった。
- ・授業に対しては頑張っているものの、理解度が低い教科に対しては「苦手」と感じ、将来の役に立つか不安を感じている児童が多い。
- ・担任とのコミュニケーションが良好で、信頼関係が支えとなっている。教員の声かけや働きかけについては肯定的に受け止め、授業や自身の取り組みにも前向きです。
- ・話し合い活動や自力解決など、他との関わりを意識した学習活動では成果が見られ、強い肯定的評価を得ています。

□生活面

- ・児童は協力や人との関わりを好む一方、コミュニケーションやサポートが不足と感じている児童が多く、生活面や精神的な支援が必要なことがわかった。
- ・自己肯定感が低く、学校での困りごと相談が不足している一方で、協働学習の成果として人を大切にすることは高まっている。
- ・責任ある仕事にも主体的に取り組む、新しいことに対する抵抗が少ないです。
- ・進んで読書をする児童が少なく、読書の興味を引き出す工夫が必要です。

課題としては、

- 1) 自己肯定感の低さ
- 2) 家庭での過ごし方のバラつき
- 3) ICT活用の不足

自己肯定感の向上には友だちとの認め合いが重要です。

家庭での生活リズムやICTの使用機会を改善する必要があります。

「地域や社会をよくするために何かしたい」と考えている児童が多いため、学校として地域や社会との関わりを推進することが望まれます。

5年生

□学習面

- ・多くの児童が自分の考えをノートに書き、重要な点を考えながら読むことや明快な答えが出るまで考える姿勢を持っている。
- ・R5年度の「読むこと・書くことを一体として指導する」取り組みにより、書くことへの抵抗が減り、考えを表現する児童が増えたことが考えられる。
- ・児童は自分の考えをノートに書くことはできるようになっていますが、「話し合いで他者の意見を聞く」「自分の考えを伝える」ことが少なく、話し合いを通じて物事を決めることに苦手意識を持っている。

□生活面

- ・将来の夢や目標を持つ児童は9割と高いですが、自分の良いところを感じている児童の割合は大阪府の平均やR5の5年生の平均を下回っている。
- ・新しいことに挑戦することに対する抵抗があり、「挑戦することが好き」と感じる児童が府の平均より低い結果となっている。
- ・日番や係活動、委員会活動などの責任ある仕事に対する意欲も高まり、積極的に取り組む姿勢が養われている。
- ・多くの児童が自分に自信を持たず、達成感や満足感を得られていないと考えられる。
- ・自己肯定感も重要ですが、達成感を得られるような取り組みが重要になってきていると考えられる。

課題としては、

- 1) 自己肯定感の低さ
- 2) 自治的に問題を解決する能力
- 3) 達成感を得られるような取り組み

自己肯定感と達成感の関係があり、達成感の得られる様な取り組みをすることが望まれます。また、自治的に問題を解決させるために、話し合いの場を設定したり、問題について話し合うための具体的な指導が求められています。